● 読書感想文コンクール　中学生の部 ●

市長賞

根本　愛子（ねもと　あいこ）八王子学園八王子中 2 年生

作品名：人それぞれの色

図書：カラフル

最近、テレビでニュース等を見ていると、悲しいことにいじめや家庭内の事情によって中高生が自殺した、といった情報が流れていることがある。私は、そういった類のニュースを見るたびに複雑な気持ちになる。なぜ人はこのようなことをするのか。他人を傷つけたり、影口を叩いたりするのだろうか。そんな時に手に取った本が『カラフル』である。

この本は、生前犯した大罪によって輪廻のサイクルから外された主人公が、たまたま抽選に当たり、自分の犯した罪を思い出し輪廻のサイクルに戻るべく、自殺を図った少年、小林真の体にホームステイをする、という物語である。この本には、様々な人物が登場する。会社の上司のミスにより昇進できたことを喜ぶ父親や、家族を裏切った母親。真にいつまでも付きまとうクラスメートに、男の人とホテルへ入っていく思い人。どれもあまり良くないイメージを持つ人々だが、これは主人公がホームステイする前の真が抱いていた印象である。物語の中で主人公が一つ一つのわだかまりを取り除いていくと、それぞれの登場人物には彼らなりの理由があったことが分かってくる。父親は、己の利益のためではなく、会社を悪くしていた上司に代わり、会社を一新させるチャンスに喜んでいたし、母親も真や他の家族と真っ向から向き合って行動していた。また、クラスメートも真をイジる為に付きまとっているわけではなく、真を心配してくれていた。思い人も自分の信念に従って行動していたのだということを理解した。私はこの部分を読んで、まるで真の周りが一気に色付いたように感じた。

世の中には様々な個性や感性を持った人達が共存している。人々の個性はまるで色のように鮮やかで数え切れないほど多くの種類があり、特に多様な色が混ざり合う社会では、互いの色を尊重し、認め合い、そして支え合っていかなければならないと私は思っている。しかし、世の中には互いの色を軽蔑したり、忌み嫌う人もいる。もちろん、人には様々な事情があるので、一概に全ての人の色を認め合うべき

だ、とは言えないが、中には一定数、ただの興味本位や憂さ晴らし、からかいなどで他人の色を否定し、傷付ける人達がいる。それは学校だけでなく、会社、社会、世界など、広い範囲に広がり、極端に言うと戦争や紛争の火種になってしまうことがあるのではないかと思う。実際に私も、互いに馬が合わず友好な関係を築けなかったことがある。それはおそらく、どこか私の中で相手の色を軽蔑していたせいだと思う。人と関わる時には、相手の表面だけで判断せず、相手に興味、関心を示し、相手の表面の奥にある様々な色を知ることが大切であると考える。奥にある色が自分の好む色であれば、より一層相手と仲良くし、たとえ好まない色であっても、その色が相手にとってどのような色であるのかを理解していれば、相手を軽率に軽蔑したり馬鹿にしたりは出来なくなるものではないだろうか。

　他人の色について意見を述べてきたが、私は、自分についても同じことが言えるのではないかと思う。私自身も、中学生の今はクラスメートとの関係だけでなく、中々慣れない部活の先輩や後輩との関係、学習面や家族関係、習い事などで悩みが出来てしまう。そういった悩みを溜め込み過ぎると、自分で自分の色を見失ってしまうのではないだろうか。この本の主人公もきっと、多くのことを溜め込んでいるうちにネガティブになり、自分の色まで見失ってしまったのだろう。

　この世界は多くの色にあふれ、とてもカラフルである。だからこそ、他人の色に対しての理解も深めていかなければならないのだと思う。お互いに色を認め合い、その色で何か人々の役に立つ事をしていけば、世界はもっとカラフルになるのではないだろうか。そのために私は、様々な人の意見を多く吸収したいと思っている。そして、主人公のように相手を理解し、様々な色とふれ合っていきたい。そういった風潮が広まれば、きっといじめやくだらない争いは減るのではないだろうか。皆がお互いにそれぞれの色を認め合い、支え合い、そして伸ばし合っていくことができれば、これからの社会はより良いものになっていくと思う。